

総務経済委員会 行政視察報告書

平成30年11月16日

狭山市議会議長
新 良 守 克 様

総務経済委員会
委員長 中 村 正 義

当委員会は、下記のとおり、岐阜県大垣市、愛知県西尾市及び静岡県富士市を視察して参りましたので、その概要について報告します。

記

日 程 平成30年10月10日（水）～10月12日（金）

- 視察事項
- 1 大垣市
大垣ビジネスサポートセンター・Gaki-Biz について
 - 2 西尾市
抹茶スイーツ選手権及び茶業振興施策について
 - 3 富士市
富士市産業支援センター・f-Biz について

参加者 中 村 正 義 三 浦 和 也 太 田 博 希
西 塚 和 音 加 賀 谷 勉 猪 股 嘉 直
磯 野 和 夫 田 村 秀 二

同行者 神 田 浩一郎 環境経済部次長

随 行 久保田 智

大垣市

[市制施行] 大正 7 年 4 月 1 日

[人 口] 161,554 人 (平成 30 年 10 月 31 日現在)

[面 積] 206.57 km²

[概 況]

濃尾平野の北西部、西美濃の中心に位置する岐阜県第 2 の都市で、揖斐川・長良川に隣接し、市域には多くの河川が流れる。中山道や美濃路が通る交通の要衝であり、古くから「水の都」と呼ばれ、その豊富で良質な地下水を利用して、県内有数の産業文化都市として発展を遂げ、西美濃地域の中核的機能を担っている。

大正 7 年 4 月に市制を施行後、昭和 42 年までに相次いで周辺町村を編入。平成 18 年 3 月には上石津町と墨俣町と合併して現在の市域を確定するが、その際 2 つの飛び地を持つ自治体となる。

現在は、岐阜県のソフトピアジャパンや大垣市情報工房を核とする高度情報産業都市として発展を続けており、市制 100 周年の節目となる平成 30 年度を初年度とした、現代の子ども達が主役となる 30 年後の「未来都市像」を「みんなで創る 希望あふれる産業文化都市」と定めた「大垣市未来ビジョン」を策定し、安全・安心で暮らしやすいまちづくりを推進している。

【視察項目】

大垣ビジネスサポートセンター・^{ガキ ビズ}Gaki-Biz について

【視察内容】

1. 事業を始めることになったきっかけ・理由について

平成 29 年 10 月に、大垣地域の産業界が主体となって、働き方改革をはじめ、大垣地域の産業の振興及び地域経済の活性化を図るため、産学官が連携し、「大垣地域経済戦略推進協議会」が設立する。

そして、日本の 99.7% を占める中小企業の産業支援施策として、「大垣ビジネスサポートセンター (Gaki-Biz)」を開所することになった。



Gaki-Biz の
ロゴマークとスローガン

※大垣地域経済戦略推進協議会は、大垣市内に拠点を置く大手企業7社と、大垣商工会議所、西濃ブロック商工会、岐阜経済大学、情報科学芸術大学院大学、岐阜県、大垣市、大垣地域の2市9町等で構成し、大垣商工会議所会頭が会長を務めている。

2. 事業の概要について

大垣地域経済戦略推進協議会が運営主体となり、協議会参画企業のサポートのもと、全国初のCSR型のBizモデル型支援センターとして、平成30年7月4日に開所。

相談体制は、センター長1名、IT・Webアドバイザー、デザインアドバイザー、事務員2名。

火曜日から土曜日(祝日・年末年始を除く)に開所し、大垣地域の企業、事業者等から相談を受ける。



Gaki-Biz 内にて

3. 現時点までの相談実績について (平成30年9月30日現在)

相談件数 300件 (7月:94件、8月:90件、9月:116件)

相談事業所累件数 196事業所

産業別相談件数 … 製造業(27.3%)、卸売業・小売業(25.0%)など

地域別相談件数 … 大垣市(51.7%)、大垣地域2市9町(35.6%)など

目的別相談件数 … 売上増加(48.3%)、販路拡大(39.0%)など

年代別相談件数 … 40代(37.3%)、50代(26.0%)など

男女別相談件数 … 男性(84.0%)、女性(16.0%)

4. 相談者の声について

- ▶ 事業に対して批判されるかと思っていたが、逆に事業について評価していただいたり、前向きな意見をいただいたので、相談して良かった。
- ▶ いろいろなところに相談に行ったが、のらりくらの対応で、具体性がなかった。センター長からは具体的な方向性を見出していただけだったので、これからも相談に行きます。すごく頼りにしています。
- ▶ 何を相談すれば良いか分からなかったが、センター長との会話の中で自分が抱えている問題が見えてきて、今はそれを改善していきたい。
- ▶ センター長から、HP作成や広報の方法などの提案をしていただき、自社の進む道が見えてきました。
- ▶ どういった相談をすれば良いのか分からなかったが、自社の強み、販路開拓方法などを聞いて、すぐやっ払いこうと思った。

5. 課題と今後の取り組みについて

現在、相談が2カ月待ちの状態。相談まで2カ月空くと、相談者の熱・やる気が冷めてしまう。センター長1名のみ“スモールスタート”で始めているが、副センター長の設置などの体制の強化が課題である。

【主な質疑応答】

Q. 協議会へ負担金を出している企業のメリットは。

A. 金融機関を除く各企業は、子会社や系列会社を持っている。その会社や取引先が元気になれば、自分たちにもメリットがある。金融機関は、企業の売り上げがあがれば、次の資本の投入が生まれてくる。

Q. 産学官の「学」についての関わりは。

A. 大垣地域をよく知る大学教授が、大垣地域経済戦略推進協議会の委員長として関わっている。また、芸術大学院大学からも協議会の役員として関わり、デザイン・ITでの連携を図っている。

Q. 「公的な支援の制度を知らない。手続きが煩雑だ」との声が一般的にあると思うが、寄り添った支援をどのように行っているのか。

A. Gaki-Biz は伴走型支援をうたっている。各々の役割をどう果たしていくか。Gaki-Biz で相談を受けて、補助金のメニューが必要という話になれば、商工会議所の職員が一緒になって申請の支援を行う。商工会議所から、相談を受けたものをGaki-Biz につなぐものもある。これは、商工会議所のトップが決めたこと。窓口は相談者が選ぶもの。窓口の選択がいくつもあってもいいのではないかな。



大垣市の所管課から説明を受ける



Gaki-Biz 入口にて

西尾市

[市制施行] 昭和 28 年 12 月 15 日

[人 口] 172,193 人 (平成 30 年 11 月 1 日現在)

[面 積] 161.22 km²

[概 況]

愛知県の中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、矢作川デルタからなる肥沃な土壌と温暖な気候に恵まれ、縄文の頃より人の暮らしが営まれてきた。

鎌倉時代に足利義氏によって築かれたと伝えられる「西条城」は、江戸時代に「西尾城」と改称され、1764 年に松平家の居城となると、6 万石の城下町として三河木綿に代表される商業が大いに栄えるようになる。

昭和 28 年に市制を施行し、同 30 年までに近隣の 6 町村を合併。西三河南部地域の中核都市として、自動車関連産業の発展とともに成長を続ける一方で、全国の約 3 割の生産量を誇る抹茶（てん茶）やカーネーション、養殖ウナギ、アサリなど農水産物の生産拠点としても発展してきた。

平成 23 年には、一色町・吉良町・幡豆町を編入合併したことにより、観光資源が豊富となったことから、近年は観光事業の推進にも取り組んでいる。

【視察項目】

抹茶スイーツ選手権及び茶業振興施策について

【視察内容】

1. 西尾の抹茶の歴史

1271 年、実相寺の開祖・聖一国師が宋から茶の種を持ち帰り、寺の境内に播いたことが始まりと言われている。1872 年、紅樹院の住職・足立順道が宇治から茶種と製茶技術を導入したことで地元農家の栽培が盛んになった。大正後期に入りてん茶の栽培・製造が主となり、現在に至っている。

2. 茶業産業について

生産者数 150 人 (平成 29 年)

生産量 433 t (平成 29 年)



1万人大茶会の様子

3. 茶業振興の取り組みについて

- ▷ 「ギネスに挑戦！ 1 万人大茶会」を開催 (平成 18 年)
- ▷ 八十八夜の日 (5 月 2 日) に茶娘による茶摘みセレモニー行事を開催
- ▷ 市内の小中学生に協力してもらい、茶摘み作業を実施

- ▶ 茶産地として地域ブランド（地域団体商標登録制度）を取得し、「西尾の抹茶」の付加価値を高める（平成 21 年）
- ▶ 高校生パティシエによる「抹茶スイーツ選手権」を開催
- ▶ 国庫補助事業を活用し、資機材を導入（総事業費 約 1 億円）
- ▶ 海外へ抹茶を輸出拡大すべく地理的表示保護制度“G I”へ登録
- ▶ 「西尾の抹茶」の文字をプリントしたポロシャツの作成（市職員が着ていました）など、様々な取り組みをしている。



4. 抹茶スイーツ選手権について

高校生パティシエに早い段階で西尾の抹茶に親んでもらうことで、パティシエになった将来に使ってもらえることを狙って開催。審査委員長は名古屋の有名パティシエで、西尾の抹茶大使でもある。事務局は西尾市商工観光課。

第 1 回の開催は 2014 年。東海 4 県（愛知・岐阜・三重・静岡）の 91 チームが参加。その後、京都をはじめ近畿地方や北陸地方にも対象を広げて第 4 回まで開催してきた。

今年(2018 年)の第 5 回は、東海 4 県と京都府の高校生を対象に、コンビニエンスストアのミニストップとのコラボレーションにより開催する（59 チームが参加）。

優秀作品は、一部エリアのミニストップで販売予定。

高校生をはじめとした若い世代への「西尾の抹茶」の認知度が向上したことが、事業の効果である。



「抹茶スイーツ選手権 2018」募集チラシ

【主な質疑応答】

- Q. 抹茶スイーツ選手権に優勝した高校生の、その後の就職については。
- A. 名古屋の調理師専門学校が 3 回優勝している。和・洋・中すべてを学んでいるので就職先は和食屋、ホテルなど、それぞれの道を進んでいる。

Q. コンビニとのコラボは、どちらから話が合ったのか。

A. 市が話を持ちかけた。昨今、コンビニスイーツは認知が上がっているので、高校生がつくる抹茶スイーツというストーリー性を活かして、コンビニをターゲットにできないか、と考えた。知りうる全てのコンビニの本部に話をしたところ、すぐにミニストップが「興味がある」と反応を示された。

Q. 「抹茶に親しんでもらうイベント」は、どのように行われているのか。

A. 抹茶の工場見学や、抹茶の飲み方のアピールなどを行っている。

Q. 海外からの注文はどこからが多いのか。

A. アジア系が多い。



西尾市の所管課から説明を受ける



西尾市本会議場にて

富士市

〔市制施行〕 昭和 41 年 11 月 1 日（置市：昭和 29 年 3 月 31 日）

〔人 口〕 254,165 人（平成 30 年 11 月 1 日現在）

〔面 積〕 244.95 km²

〔概 況〕

日本列島太平洋岸のほぼ中央となる静岡県東部に位置する県内第 3 位の人口を誇る中核都市であり、高速道路の富士 I C や新富士 I C、新幹線の新富士駅、田子の浦港などを持つ交通の要衝。温暖な機構と豊富な地下水に恵まれ、古くから製紙産業が盛んであるほか、輸送用機械・化学・電機などが立地する県下有数の工業都市。

昭和 41 年の(旧)富士市・吉原市・鷹岡町の新設合併による市制施行後、平成 20 年 11 月には西接する富士川町を編入合併。

平成 23 年度からスタートした第 5 次富士市総合計画のめざす都市像の実現に向け、諸政策の展開に取り組んでおり、後期基本計画の都市活力再生戦略に位置付けた 3 つのプロジェクト・35 施策の推進を重点に、理想とする「まちが元気で、産業・経済が成長し、暮らしも充実する好循環が構築された富士市」の実現を目指す。また、平成 29 年からは海拔 0 m から富士山までという自然環境を活かし策定した「いただきへの、はじまり 富士市」の「ブランドメッセージ大作戦」を展開している。

【視察項目】

富士市産業支援センター・^{エフ ビズ}f-Biz について

【視察内容】

1. 富士市産業支援センター・f-Biz について

2008 年 8 月、富士市立中央図書館分館 1 階に開設。新たな市場を開拓したい、今の事業をさらに大きく成長させたい、経営の課題を解決したい、そんな企業の声に、強みや良いところを見つけ伸ばしていく姿勢で応える産業支援の拠点である。

相談業務を支援の柱にすえながら、定期的にセミナーやイベントを開催し、自己啓発やスキルアップ、人と人との交流を促進している。



f-Biz の入口

2. 小出宗昭センター長による説明概要

Bizモデルは、地方創生の注目プロジェクトとして社会現象になっている。

富士市は、昭和 50 年代の前半は、工業品出荷高 1 兆 8 千億円の工業都市だったが、

大手企業の生産縮小・撤退で、県内6位まで落ちていた。

日本の企業の99%は、地域の経済を支えている中小企業である。ここを元気にすることで、このまちをもう一度元気にすることはできないのかと考え、新たな支援センターづくりを行うことになった。

しかし、2007年当時、全国の支援センターへ視察に行っても、人はおらず、成果もない状況がほとんどで、ハードではなくてソフト（人）が重要であることに気がつく。

人を捜し回り、銀行から出向して3つの支援センターの立ち上げをしていた、富士市出身の小出氏に声がかかり、f-Bizが始まった。

経済産業省は、税金を投入しているのに、中小企業支援として期待されている効果が一向に上がらないことに強い危機感を持っていた。

2013年8月、中小企業の経営支援強化を重点項目として考えていた経済産業省に、f-Bizが目にとまり、国会議員からも注目が集まった。

私たちのクライアントは市民。6800万円の予算を預かっているが、プライドにかけて、税金を無駄にしてはいけない。圧倒的な成果を出し続けて「お金を使って良かったね」と言わしめたい、と考えている。これを全国のビズの仲間に教育しているので、パフォーマンスが高い。

我々は相談を受けた瞬間から、経営者・従業員とその家族の人生を預かっている、という考え方で、絶対に手を抜かないという意識でやっている。これだけやっても、税金・市民の目は怖い。

すべての企業が今よりも良くありたい、と考えている。ビジネスコンサルタントは、結果が出なければならない。“一生懸命やっている”は通用しない。結果の基準が曖昧ということはなく、相手が考えていることを具現化できれば、それが結果となる。

人で90%は決まる。いい人を選べるかどうか。

これまでは一般的に、資格や経験が重要と言われてきたが、結果が出ていないのでそれを全面否定した。我々が求める人とは、ビジネスセンスがあり、コミュニケーション能力と情熱を持っている人、と考えた。

最前線で活躍している人はいるけれど、これまで公とは接点がなかったので、門戸を開くことを行った。また、高い報酬で働いている人ばかりなので、報酬はプロ化して1200万円に設定した。これは、最低ラインだと思っている。民間でも、お金をかけなければ良い人材は採れない。300名程の応募者から、1名をふるいにかける。びっくりするような人が、大幅に年収がダウンするにも関わらず「どうせ働くなら、会社のためよりも地域のため人のために働きたい」と退路を断ってやって来る。1年契約で、成果が出な

ければ解雇となる厳しいプロフェッショナルの世界に。

そして、これまでの具体的な支援実績についての話を伺い、Bizモデルについての理解を深めました。

また、質疑応答を行い、最後に小出センター長から「皆様には、ぜひ Saya-Biz をもり立てていただいて、本格的な首都圏で行う Saya-Biz は注目度も高いと思いますので、こんなやり方で地域は元気になるんだ、というモデルを、狭山から発信していただけたらうれしい。私自身も引き続き全力で応援していきます。」とのお話がありました。



小出センター長から説明を受ける



f-Biz 前にて

以上が視察の概要であり、報告いたします。